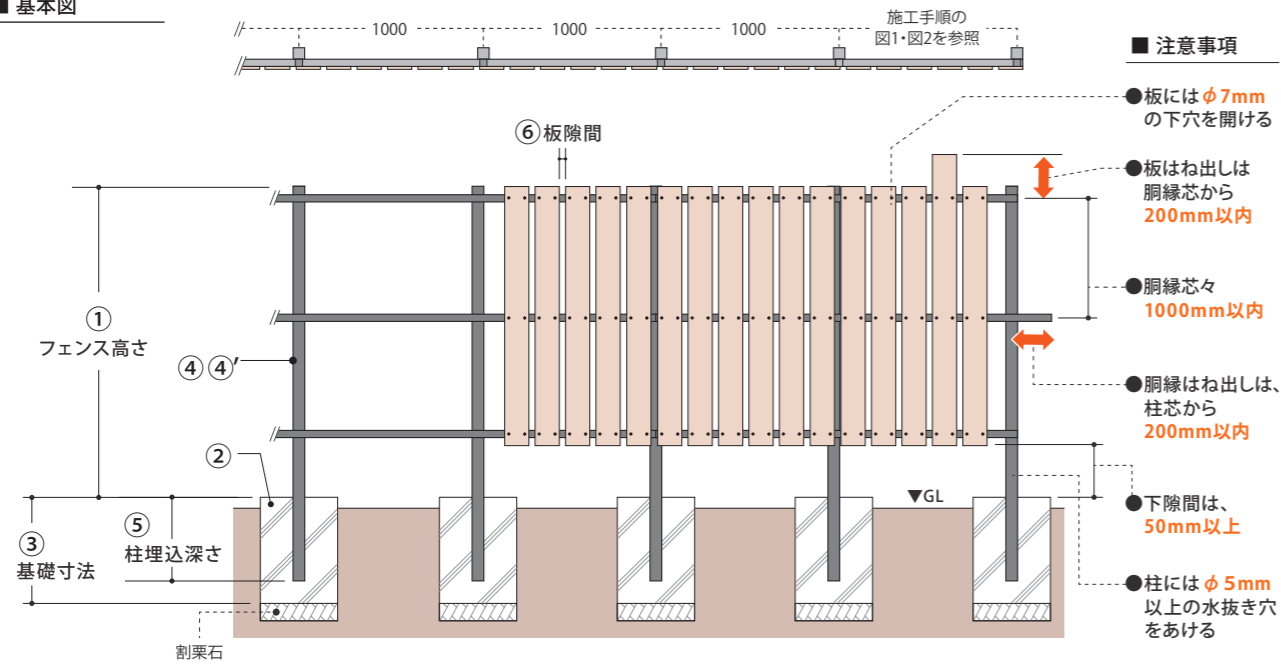


基本図



注意事項

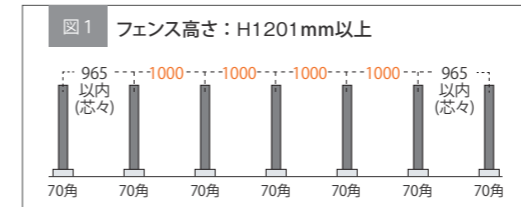
フェンス高差別 施工仕様表

① フェンス高さ	1200mm以下	1201mm以上～2000mm以下	2001mm以上～2199mm以下
② 使用基礎	● ブロック ※1 ● 独立基礎ブロック ● コンクリート基礎	● 独立基礎ブロック 又は ● コンクリート基礎	● 独立基礎ブロック 又は ● コンクリート基礎
③ 基礎寸法 ※3	巾300 × 厚300 × 根入400	巾450 × 厚450 × 根入450	巾450 × 厚450 × 根入550
④ 使用する柱	アルミ柱 40角	アルミ柱 70角	アルミ柱 70角
④' 必要柱長さ	(フェンス高さ) (必要な柱長さ) ● H800 以内 → L=1000mm ● H1000 以内 → L=1200mm ● H1200 以内 → L=1500mm	(フェンス高さ) (必要な柱長さ) ● H1500 以内 → L=1800mm ● H1800 以内 → L=2100mm ● H2000 以内 → L=2500mm	(フェンス高さ) (必要な柱長さ) ● H2200 以内 → L=3000mm
⑤ 柱埋込深さ	200mm以上	300mm以上	500mm程度
⑥ 板隙間	5mm以上	5mm以上	5mm以上 ※H2001mm以上の場合で、板隙間が15mm以下の場合は、鉄芯材の使用をお勧めします。
必要な場合 オプション部材を選択	<p>☑ ブロック上への施工で、アルミ柱60×40がブロック穴に入らない場合 → 「60×40柱用 埋め込み金物」をお使い下さい</p> <p>☑ 強風地域や、柱に強度が必要な場合 ☑ フェンス高がH2200以上の場合 → 「ZAM鉄芯」又は、控え柱が必要です</p> <p>☑ 水が凍結する恐れがある地域の場合 → 「凍結防止用 発泡スチロール」をお使い下さい</p>		

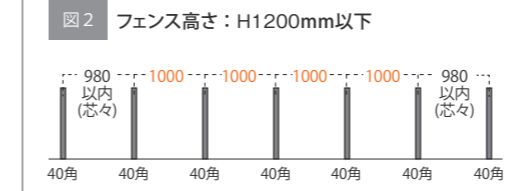
※1: コンクリートブロックでの施工は、厚み12cm以上かつ、C種の性能以上の物をご使用ください。
※2: 「③基礎寸法」は参考寸法です。フェンスタイプや地盤状況、風当り等現場によって異なる場合があります。状況に応じてご検討下さい。

1 アルミ柱を設置する。

- 柱ピッチは芯々1000mm以内としてください。(図1、2参照)
- 現場状況に応じて控え柱などの補強を施してください。
- フェンス高がH2200mm以上になる場合は、アルミ柱に鉄芯材を入れてください。
- 柱には必ず直径5mm以上の水抜き穴をあけてください。
※水が凍結する可能性のある地域では、アルミ柱埋め込み部分に、凍結防止用発泡スチロールをご使用下さい。

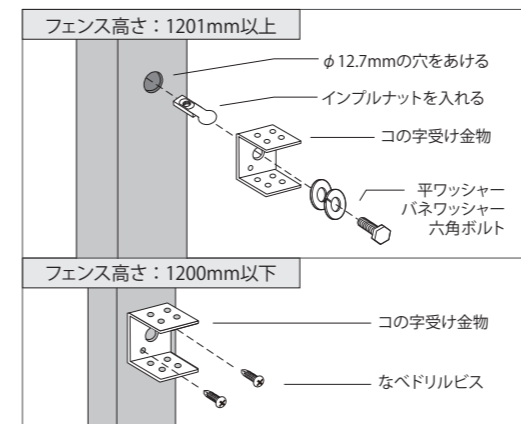


- H1200以下の場合、図2の様に「40角柱」を立ててください。

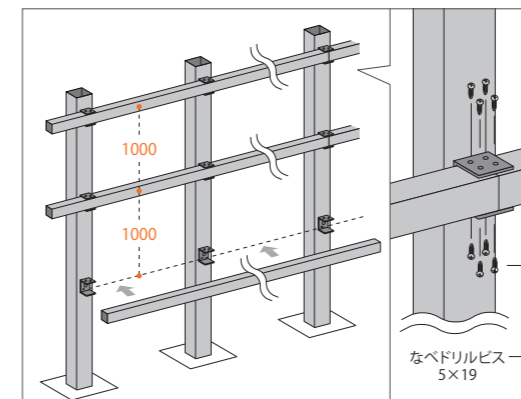


2 横胴縁を取り付ける。

- 柱の胴縁設置部分へ墨付けをし、コの字受け金物を取付ける。
※フェンス高さにより、留め付け具が異なります。(下記)



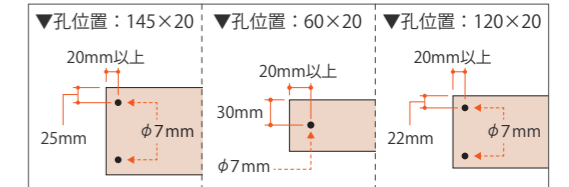
- 胴縁をコの字受け金物にはめ、なべドリルビス5×19で留付する。
- 胴縁ピッチは芯々1000mm以内としてください。



3 再生木板を実測し、φ7mmの下穴をあける。

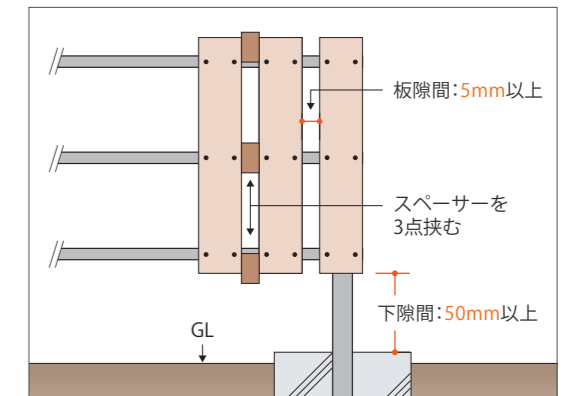
- 板は製造時に定尺でカットされていますが、季節や昼夜の寒暖差、日当たりによって伸び縮みし、多少長さに違いが出ます。
施工前に板の実寸を測り、必要に合わせてカットして下さい。

- 下孔数
板145×20サイズ… 6カ所/枚
板60×20サイズ… 3カ所/枚
板120×20サイズ… 6カ所/枚



4 クランプ等で、再生木板を胴縁へ仮固定する。

- スペースを板隙間の上・中・下の3点に挟み、隙間寸法を調整し、万力やクリップなどで固定します。
※この時、面材の板隙間は、5mm以上空けてください。
※再生木に曲りがある場合、スペースを挟み、上下を万力などで固定した後、中間部を矯正しながら固定してください。



5 シンワッシャードリルビスで板を固定する。

- ビス使用数
板145×20サイズ… 6本/枚
板60×20サイズ… 3本/枚
板120×20サイズ… 6本/枚
※再生木の伸縮に対応する為、ビスが板に食い込む程締めすぎない様に、留め付けして下さい。

6 各種キャップをそれぞれ留付する。

- アルミ柱と胴縁の小口は接着剤でキャップを留付し、再生木の小口は端部キャップ用留付セットを使って、キャップを留付します。

7 完成

